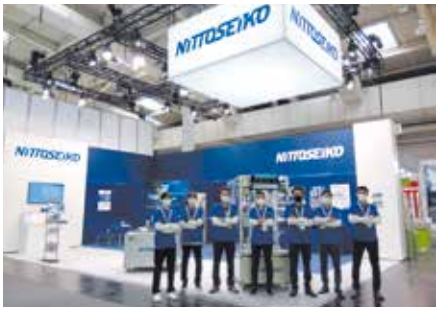
2022年8月15日号（通巻92号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

ドイツ・ハノーバーで開催された見本市「HANNOVER MESSE 2022」に初出展しました



「HANNOVER MESSE」はドイツで開催される、欧州・中東のメーカが集う世界最大規模の産業技術専門展示会です。本年は5月30日から6月2日まで開催され、当社も初出展しました。今号の巻頭特集はこの展示会をレポートします。

世界最大級の展示会で日東精工の技術力を強くアピール

世界最大規模の産業技術展示会「HANNOVER MESSE」。コロナ禍で一昨年、昨年は中止を余儀なくされましたが、本年はリアルとオンラインのハイブリッドで開催。

オープニングセレモニーではドイツ首相オラフ・ショルツ氏がスピーチし、また会場を直接視察するなど、ドイツが国をあげて本展示会の成功を後押ししていました。会期中、本会場には約7万5000人が訪れ（出展社数も約2000社におよびます）盛況な展示会となりました。日東精工も欧州市場の拡大を目指し、この「HANNOVER MESSE 2022」に初出展しました。

日本の展示会との違いとして感じられたのは、その国際色の豊かさです。当社ブースだけを見ても欧州各国をはじめ、インド、ブラジル、エジプト、カナダ、中国、韓国などじつに様々。欧州に強いネットワークをもつ当社グループの日東精工アナリテックや三菱ケミカル社、SIRA社の現地駐在の方からサポートを受けながら、多様な方々にPRすることができました。

日本からは、当社も含めた８社が出展（＊代理店・商社からの出展は除く）。当社は自動車関連・ロボット関連のホールにて展示。ねじやワークに付着するコンタミネーション（ほこりなど小さなごみ）の除去をテーマに、ねじ・ねじ締めロボットの両面からご提案しました。

実演・体験コーナーにてコンタミ対策ユニット搭載ねじ締めロボット＆CPグリップを展開。

★コンタミ対策ユニット搭載
ねじ締めロボット

電子機器や精密部品など、コンタミネーションを嫌うワークを扱うユーザーからの要望に応える、新たなコンタミ対策ユニットです。圧送式（エアーを用いてねじをドライバ先端に送る）を採用することによって、サイクルタイムを犠牲にすることなく、コンタミ対策が可能です。

★CPグリップ

また、ねじ締めロボットだけでなくねじ側でのコンタミ対策もご紹介しました。ワークのめねじに付着したコンタミネーションを、ねじに塗布した特殊マイクロカプセルにより吸着保持します。

ＣＰグリップについては動画をご覧いただけます

その他、締め付け部位への手動動作をアシストする「バランスアーム付きねじ締めドライバ」や、軟質金属の焼き付きを防ぐねじ「アルミタイト」など多種多様な技術をご覧いただきました。

現地メディアなどでも高評価を得る

今回の出展にあたり、ありがたいことに多くの媒体から取材をいただきました。掲載記事の一部をご紹介します。

★日本企業をレポートした「Salesforce」のサイト

「日東精工は、建屋の中央ドアから入ってすぐという場所の良さ、日本から持ち込んだ大型のねじ締め機など、複数の最新機器を展示しており、参加者の興味を引いたようです。日本から営業担当者だけでなく、マーケティング担当者も現地入りする力の入れようです。ブースもきれいに造作していて、その場で商談に落とし込むために手を尽くしている印象を受けました」

★The Daily NNA ドイツ＆EU 版

「略……『Yθ型ねじ締めロボット《通称：ねじロボ》SR565Yθ-Z』は『ちりやねじの金属くずを減らしたい』という顧客の要望に応え、コンタミを逃がす装置も組み込まれている優れものだ。日本が得意とするオールインワンの良さが発揮されている製品と言えるだろう」

そのほかにも、「日経XTECH」やジェトロのホームページでも取り上げていただきました。

当社は1969年の台湾を皮切りに、インドネシア、タイ、マレーシア、中国、韓国などのアジア、そしてアメリカと、計8か国15拠点を置いており、グローバルに事業展開しています。そして、今後さらに海外での事業比率を上げていくことが、当社中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」の戦略テーマの一つです。

もちろん、既に欧州のお客さまとの取引実績は多数あり、前号の巻頭特集でも少しふれましたが「CEマーク」、これは製品をEU加盟国へ輸出する際の安全基準条件を満たすことを証明するマークですが、たとえば産機事業部のねじ締め機NXドライバ「SD600T」など、CEマークに適合した製品も製造販売しています。

今回のドイツ「HANNOVER MESSE 2022」への出展により、既存のお客さまとの関係の深耕と同時に、新規のお客さまの獲得、また欧州市場への本格参入の足掛かりをつくることができました。日東精工グループでは今後もこういった国内外の展示会に随時出展し、当社の事業や技術力をご理解いただけるよう発信してまいります。

当社代表取締役社長 材木正己の「旭日双光章」受賞記念 感謝の会を開催しました

人が「集う」ことについては、コロナ禍が続き長く自粛をしておりましたが、工夫をしながら少しずつ前へ進めていくこととし、6月14日、京都市内のホテルで「旭日双光章」受章記念の感謝の会を開催しました。「叙勲は多くの方々の支えがあってこそのもの。皆さまに感謝を伝え、喜びを分かち合い、それをまた新しい力にしていきたい」という当社社長材木正己のかねてからの思いをようやく形にすることができました。

既にご案内のように昨年秋、当社代表取締役社長材木正己が「旭日双光章」を受章しました。コロナ禍の非常事態で宮中での授与とはなりませんでしたが、12月3日に経済産業省の近畿経済産業局伊吹英明局長に京都府綾部市にある当社本社まで足をお運びいただき、天皇陛下の名代として位記と勲章を授与いただきました。社内での勲章授与式でしたので、材木本人だけではなく当社役員や管理職も参列し喜びを共有することができました。

材木は経営者として、一部上場(現プライム)企業である当社を安定成長させ、それを通じて地域貢献・社会貢献を行ってきました。国や京都府、綾部市などいくつもの業界団体の役職を歴任。たとえば京都工芸繊維大学の経営協議会委員や京都経営者協会副会長、綾部市の防犯協会会長などを務め、地域の発展、人財づくりに積極的に関わってきたことが評価されました。

もちろん、材木個人だけでなく、当社の礎を築いてきた先達をはじめ、お取引先さま、株主さまなど、日東精工に関わっていただいているすべての方の支えがあってのものです。この受章の喜びを皆で分かちあって、そして、当社の明日への活力にしたいと、材木自身、かねがね希望しておりました。

★

コロナ禍については、完全収束にいたっていませんが、各自治体などでは工夫をしてお祭り

喜びと感謝を伝える当社代表取締役社長　材木正己

協同組合日東協力会代表理事　山下信幸様から祝辞(上)、舞妓さんから祝花を受け取りました

やイベントを開催するようになり、また修学旅行なども実施、観光キャンペーンも再開される状況になってきました。そこで今般、6月14日に京都市内の『THE THOUSAND KYOTO』にて、受章記念の感謝の会を、衛生管理を徹底のうえ、開催しました。昨年の受章の折には各方面からたくさんの祝花 胡蝶蘭を頂戴しましたが、今回の感謝の会には、本田太郎衆議院議員、西脇隆俊京都府知事をはじめ皆さまから祝電をいただきました。

当日は当社製品を扱っていただく販売代理店の方を中心に約50名をお招きしました。当社からは材木正己本人をはじめ役員・執行役員が参加したほか、日東精工グループ各社の代表も出席させていただきました。

★

日東精工は成長戦略のもと、2018年には伸和精工、2020年には日東精工アナリテック、そして本年4月にはケーエム精工とのM&Aを実施しています。新しくグループに加わった会社のお披露目の機会をなかなか設けることができませんでしたが、この感謝の会を通して、これまでコロナ禍で制限されていた人的交流も行うことができました。製品の一部やパンフレットを展示するなど、各社で情報交換を行いました。

また、遠方からお見えになった方への京都らしい演出をということで、こちらもウイルス対策をしっかりしたうえですが、花街（宮川町）の芸妓さん・舞妓さんが舞を披露、お祝いの場に彩りを添えていただきました。

前述のように、人数制限の都合もあり、販売代理店の方を中心にした会でしたので、お取引先さまをはじめ、ねじ業界、産学連携先、地域連携、メディアなどの皆さまをお招きできませんでしたが、改めて受章の報告と感謝を申し上げます。これからさまざまな仕事を通して「感謝」の想いを形にしていければと願っています。

なお、この感謝の会に際し、日東精工グループのことをまとめた「絆」という小冊子を作成しました。各社の掲載内容は、下記QRコードからダウンロードのうえお読みいただけます

「日東精工テクニカルレポート」82号を発行しました

「日東精工テクニカルレポート」の最新号、通巻82号を発刊しました。今号では下記をはじめとするレポートを掲載しています。

・KizMiL Ⅱの開発～機能向上の取組み～
・新型クリンチングスタッドボルトの開発
・EU拡販に向けたRoHS指令への適合の取組み
・小型アクアメータWEの開発

当社ではファスナー、産機、制御システム、メディカルの各事業部に技術開発者を配置。さらに各事業の枠組みにとらわれない「基礎研究」や「応用開発」を行う研究開発部も設けています。研究開発部は、既存事業製品のバージョンアップとは異なる新しい価値の創造を担い、次代に向けての技術開発に取り組む部門ですが、こうした技術開発活動とは別に各事業部の技術的連携を媒介する役割も担っています。その一環として毎年「日東精工テクニカルレポート」を発行。同レポートは近日中に当社ホームページでも公開する予定です。

第12回モデルフォレスト活動を口上林地区で行いました

6月18日、当社本社をおく綾部市の口上林地区でモデルフォレスト活動を行いました。口上林自治会連合会、忠町自治会、京都府中丹広域振興局、綾部市林政課のご参加のもと、従業員12名（日東精工9名、日東公進3名）を加え、総勢18名での活動となりました。雨天やコロナ禍での中止が続き、2018年6月に実施して以来、4年ぶりの活動でした 。笹や下草が生い茂った現状を目の当たりにし、改めて森林保全の大変さや手入れの重要性を実感しました。この活動は2012年3月に 口上林自治会連合会、京都モデルフォレスト協会、綾部市、京都府、当社による森林の利用保全に関する協定の調印式が行われてから10年が経過し、初回からの参加延べ人数は430名となりました。

森林の恩恵を受ける地域社会の一員として、今後も関心を寄せ、地域や行政と連携し、環境保全意識の醸成を図ってまいります。

今回は約２時間かけて下草刈りを行いました

大学のオープンキャンパスで受験生応援ゆるみ止めねじをプレゼント

当社のゆるみ止めねじ「ギザタイト」をゆるまない、集中力持続のシンボルとしてお贈りするキャンペーンでは、2014年の企画開始からこれまで延べ4万2000人以上にプレゼントしてまいりました。

今般、京都府北部の学びの拠点、地域連携の中枢である福知山公立大学から、7月16日に開催されたオープンキャンパスの参加者に「ねじ」を配りたいというお申し出があり、福知山公立大学と共同で、特別パッケージデザイン300個を制作いたしました。

なお、2022年度の受験生応援ねじについては、例年通り12月募集開始を予定のうえ、準備を始めています。

from 社長室

正己語録㊻

地図よりも羅針盤

当社が本社をおく京都府綾部市の山崎善也市長が市報の連載コラムで『地図よりも羅針盤』（Compasses over maps）という言葉を紹介されています。

状況が日々刻々と変化しているときには、既存の固まった知見より、現時点での観測に基づく情報のほうが有効。既往説を鵜呑みにするのではなく、自分でものごとを判断せよという戒めとして、アメリカのマサチューセッツ工科大学の実験室で、盛んに使われている言葉なのだそうです。

〈目的地に向かうとき、地図があれば便利だがややもすると図面をなぞるだけになり、ましてやカーナビの案内に頼るに至っては、既存データに因るコンピュータ指示に盲従するばかりである。この10年を見ても、地球温暖化による環境問題、頻発する自然災害や地震、新型感染症の世界的まん延、そして今般のロシアのウクライナ軍事侵攻など、何もかも転変著しい。誰も経験したことのない時代の真っ只中、当然のことながら前例やマニュアルがない中で、責任ある立場の者はその場・その時にベストな判断を求められる。まさに頼れるのは過去の地図情報ではなく、現時点の方向を見定めることのできる羅針盤となる……〉

（善聞語録第１４８回）

そして、その「羅針盤」を錆びつかせないためには、謙虚に歴史を学び、現実を直視し、視野を広く持って情報を集め、そして何より明るく前向きな気持ちで「未来は必ず変えられる」と信じることであると、山崎市長はおっしゃっています。

これは市政、まちづくりだけでなく、ビジネスにもまったく当てはまることだと早速肝に銘じた次第です。と同時に、当社『人生の「ねじ」を巻く77の教え』48番にある「チャンスとオポテュニティの違い」についても改めて思いめぐらせました。

「棚からぼた餅的なめぐりあわせ」がチャンスなのに対し、オポテュニティは「意図して生み出す機会」です。原語の英語には「ＰＯＲＴ」（港）が含まれています。積んだ船荷をどこの港におろせばいちばんいいのか、利益の機会を得るためにどこに向かうのがいちばんなのか、ベクトルの向きをはっきりさせるのも、リーダーの条件であるのでしょう。「パーパス経営」という言葉を耳にすることもありますが、なんのため、どこに向かうか、どのように向かうかを見定めるための「羅針盤」をこれからも大事にしていきたいと思っています。

連載㊶

あやべ　ちょっと寄り道

黒谷和紙でスマホケースづくり！

日東精工が本社をおくあやべの郊外、黒谷は平家の落ち武者が隠れ棲んだという800年の歴史をもつ和紙の里で、こちらの黒谷和紙会館では事前予約で紙（はがき）漉き体験ができます。また紙漉き以外にも、これまで黒谷和紙を使ったスマホケースづくりのプログラムも実施してきました。自分でスマホの透明ケースを用意して、そこに自分の好きな和紙を選んで貼り付けていけば、世界でたったひとつのオリジナルスマホケースの出来上がり。このプログラム、次回の開催は未定ですが、駅前の観光案内所や市内の文具店などで黒谷和紙の端紙を買って自分で工夫をしながらでもできそうですね。デジタル最先端と伝統の技の融合はなかなか乙なもの！

画像協力／綾部市観光協会

発行：日東精工株式会社経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます